

平成 21 年度（第 53 回）  
岩手県教育研究発表会資料

社会／地歴・公民

# 小学校社会科における知識・技能の活用を図る 学習活動に関する指導展開例の作成

平成 22 年 2 月 18 日  
岩手県立総合教育センター  
長期研修生  
所属校 一関市立油島小学校  
千葉 真

## 目 次

I	研究目的	1
II	研究の方向性	1
III	研究の内容と方法	1
1	内容と方法	1
2	授業実践の対象	1
IV	研究結果の分析と考察	1
1	小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する基本的な考え方	1
(1)	小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動	1
(2)	学習過程への「活用」の位置付け	3
2	指導展開例作成に当たっての基本的な考え方	4
(1)	指導展開例の基本構成	4
(2)	指導展開例の作成手順と方法	4
(3)	指導展開例の様式	5
3	授業実践及び実践結果	8
(1)	授業実践の計画	8
(2)	授業実践Ⅰにおける単元の概要	8
(3)	授業実践Ⅱにおける単元の概要	9
(4)	指導場面の概要	9
4	指導展開例に取り入れる「活用」の例	15
5	小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関するまとめ	16
(1)	成果	16
(2)	課題	16
V	研究のまとめと今後の課題	16
1	研究のまとめ	16
2	今後の課題	17

<おわりに>

【引用文献】

【引用 web ページ】

【参考文献】

## I 研究目的

本県の小学校社会科においては、問題解決的な学習の充実を図ることにより、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、思考力・判断力・表現力を育成することが重視されている。そのためには、資料から必要な情報を読み取る、読み取ったことを他と関連付ける、考えたことを自分の言葉で説明する、考えたことを伝え合う、というような基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を充実させることが必要である。

しかし、学習定着度状況調査（岩手県教育委員会，2004～2006）では、社会的事象に見られる特徴やその目的、意味等を考察する「社会的な思考・判断」の正答率が低いことが報告されている。この要因として、学校の授業で基礎的・基本的な知識・技能の習得が重視され、観点を示した調べ学習や根拠に基づく意見の発表、生活に結び付けて考えるふり返りなど、問題解決的な学習の展開過程が吟味されなかったことが考えられる。

このような状況を改善するには、各単元で習得させる基礎的・基本的な知識・技能を単元指導計画に位置付け、問題解決的な学習過程をとおして、これらを意図的・計画的に活用する授業を展開していく必要がある。

そこで、この研究は、「『活用』に関する指導資料」（岩手県教育委員会，2009）に基づいて、小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例を作成し提示することをおして、授業の改善に役立てようとするものである。

## II 研究の方向性

小学校社会科における授業の改善に資するため、知識・技能の活用を図る学習活動を位置付けた指導展開例（試案）を作成し、授業実践をとおして改善・修正した指導展開例を提示する。

## III 研究の内容と方法

### 1 内容と方法

- (1) 小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する基本的な考え方（文献法）
- (2) 指導展開例作成に当たっての基本的な考え方（文献法）
- (3) 授業実践及び実践結果（文献法，授業実践，観察法，質問紙法）
- (4) 指導展開例に取り入れる「活用」の例
- (5) 小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関するまとめ

### 2 授業実践の対象

一関市立油島小学校第5学年（男子7名 女子4名 計11名）

第6学年（男子2名 女子5名 計7名）

## IV 研究結果の分析と考察

### 1 小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する基本的な考え方

- (1) 小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動

社会科における、知識・技能の活用を図る学習活動（以下「活用」と表記）を、岩手県教育委員会では、次の①～④のように示している。（『活用』に関する指導資料：岩手県教育委員会，2008）

①《事実認識》 問題解決に必要な資料を収集・選択するとともに、資料から必要な情報や事

実を読み取る。

②《社会認識》 読み取ったことを比較・関連付け・総合しながら再構成し，社会的事象の意味，意義を解釈する。

③《論述・説明》 事象の特色や事象間の関連を考え，それらを自分の言葉で的確に論述し，説明する。

④《集団思考》 考えたことを伝え合い，話し合いを通して互いの考えを深めていく。

これは，「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」（中央教育審議会，2008）に基づいていると考えられ，小学校から高等学校までを網羅したものになっている。そこで小学校社会科における「活用」をとらえるために，上記①～④に該当する学習活動について，小学校学習指導要領解説（社会編）に示されている内容をまとめたものが【表1】である。

【表1】小学校学習指導要領解説（社会編）に示される「活用」

「活用」に関する指導資料	小学校学習指導要領解説（社会編）に示される「活用」
①事実認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料から必要な情報を的確に読み取る。</li> <li>資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる。</li> <li>資料の特徴に応じて読み取る。</li> <li>必要な資料を収集・選択したり，吟味したりする。</li> </ul>
②社会認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み取ったことを的確に記録する。</li> <li>複数の資料を関連付けて読み取る。</li> <li>資料を整理したり再構成したりする。</li> </ul>
③論述・説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象の意味をより広い視野から考える。</li> <li>社会的事象の意味について考えたことを，根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現，説明する。</li> </ul>
④集団思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象の特色や相互の関連などについて相手にもわかるように表現する。</li> <li>考えたことを自分の言葉で伝え合う。</li> </ul>

一方，澤井（2009）は，小学校社会科における「活用」について【表2】のように示している。

【表2】澤井の示す小学校社会科における「活用」

小学校社会科における「活用」
<ul style="list-style-type: none"> <li>資料や情報を自分の考えに基づいて収集・選択・整理して，相手にわかりやすく加工あるいは再構成する。</li> <li>事実の読み取りと自分の考えや根拠を分けて説明する。</li> <li>端的な言葉で特徴や傾向を表現する。</li> <li>他の児童の意見との異同や関係を明示する。</li> <li>文章による表現のほか，図表，イラストなど様々な方法による表現などを多様に取り入れる。</li> <li>発表，報告，討論，話し合い，ディベートなどを設定し，意見交換や情報交換を活発にする。</li> </ul>

以上，「『活用』に関する指導資料」，並びに【表1】，【表2】を基に，本研究では，小学校社会科における「活用」を【表3】のようにとらえることとする。

【表3】本研究での小学校社会科における「活用」のとらえ

学習活動	具体的な内容
読み取り	問題解決に必要な資料を収集・選択するとともに，資料から必要な情報や事実を読み取る。
再構成	読み取ったことを比較・関連付け・総合しながら再構成し，社会的事象の意味，意義を解釈する。
表現・説明	事象の特色や事象間の関連を考え，それらを自分の言葉で表現する。
話し合い	考えたことを伝え合い，話し合いをとおして，互いの考えを発展させる。

(2) 学習過程への「活用」の位置付け

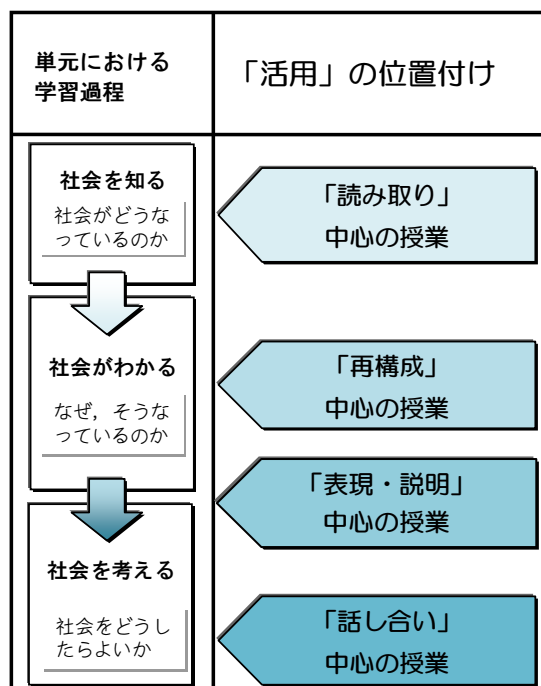
ア 単元の学習過程への「活用」の位置付け

岩田 (2001) は、単元の学習過程として「社会を知る」「社会がわかる」「社会を考える」という三段階を示している。この段階に基づき、「活用」を位置付けたものが【図1】である。

「社会を知る」段階では、「社会がどうなっているのか」という問いを解決していく過程を基本とする。観察や体験、既習の知識・技能などを活用しながら、主に「読み取り」中心の授業を重点的に位置付ける。

「社会がわかる」段階では、「読み取り」の中で得られた新たな事象に対して、「なぜ、そうなっているのか」という問いをもち、解決していく過程を基本とする。「社会を知る」段階で得られた新たな知識を活用しながら、主に「再構成」「表現・説明」中心の授業を重点的に位置付ける。

「社会を考える」段階では「社会をどうしたらよいか」という問いに対して、自分なりの考えを表現する過程を基本とする。「社会がわかる」段階で得られた新たな知識を活用しながら、主に「表現・説明」「話し合い」中心の授業を重点的に位置付ける。



【図1】単元における「活用」の位置付け

イ 一単位時間の学習過程への「活用」の位置付け

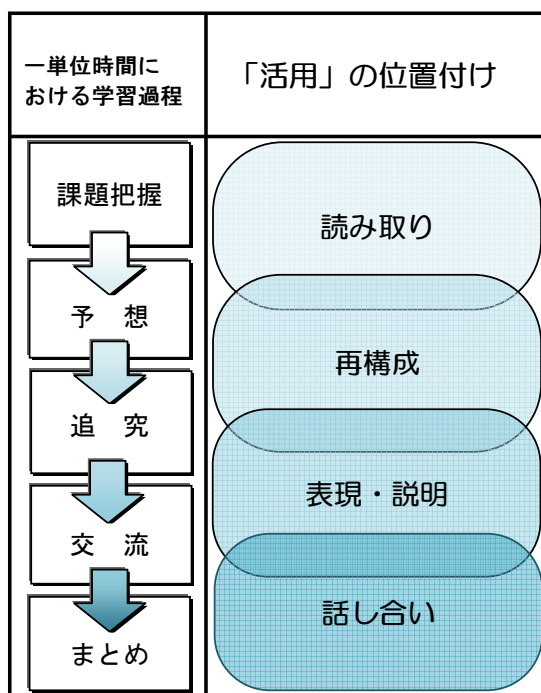
岩手県教育委員会は、一単位時間の学習過程として「課題把握」「予想」「追究」「交流」「まとめ」という問題解決的な学習過程を示している。(岩手県学校教育指導指針, 2009) この段階に基づき、「活用」を位置付けたものが【図2】である。

「課題把握」の段階では、資料から読み取った情報を活用して、社会的事象に対して学習課題を設定する。ここでは主に「読み取り」を位置付ける。

「予想」の段階では、前時までの学習経験や、課題把握の段階で読み取った情報を活用して、予想を立てる。ここでは主に「読み取り」「再構成」を位置付ける。

「追究」の段階では、読み取った情報を活用し、それらを比較・関連付け・総合しながら、社会的事象の意味について考える。ここでは主に「再構成」「表現・説明」を位置付ける。

「交流」「まとめ」の段階では、調べたことを活用して、表現したり、説明したりし、話し合いをとおして考えを深めていく。ここでは主に「表現・説明」「話し合い」を位置付ける。



【図2】一単位時間における「活用」の位置付け

## ウ 「習得」と「活用」の関係

前頁ア、イのとおり、問題解決的な学習は、知識・技能の「習得」と「活用」を互いに関連させて進めていくこととなる。これについて、北（2008）は、「一旦身につけた知識や技能は、それらを活用して学習することをとおして、身に付けた知識や技能をさらに確実なものとしたり、新たな知識や技能を習得したりする機会にもなる。また、問題意識を持って、すでに習得している知識や技能を活用して新しい知識や技能を獲得（習得）していく過程が探究している姿である。（筆者中略）活用や探究によって、習得した基礎的・基本的な知識はさらに定着したり、新たな知識・技能（調べて身に付く知識・技能、考えて導く知識・技能、概念的で抽象度の高い知識・技能、応用性・転移性のある知識・技能など）が新たに習得されたりする」としている。

北の言うとおりに、「習得」と「活用」は相互に関連し合っており、「習得」「活用」の双方向的な流れを意識しながら「活用」を問題解決的な学習過程に位置付けることで、知識・技能を確実に定着させることができる。また知識や技能の質が、「新たな知識・技能」や、「概念的で抽象度の高い知識・技能」へと広まったり深まったりする過程において、社会的な思考力・判断力・表現力の育成が図られる。

## 2 指導展開例作成に当たったの基本的な考え方

### (1) 指導展開例の基本構成

本研究においては、「『活用』に関する指導資料」と参考文献を基に、小学校社会科における指導展開例を次のような内容で構成する。（【表4】）

【表4】指導展開例の構成

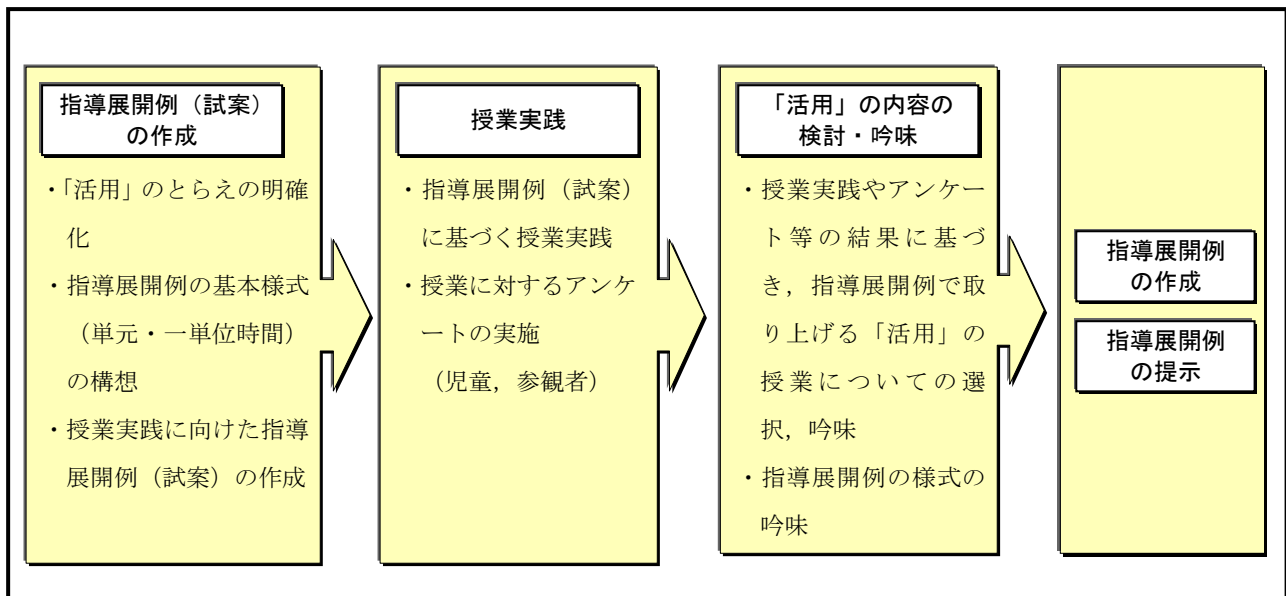
項目	主な内容
I 知識・技能の活用を図る学習活動の考え方	・小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動のとらえ ・授業を展開する際の留意点 ・単元構想図及び一単位時間の指導展開例の見方
II 単元構想図	・目標及び身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能 ・単元における「活用」の位置付け ・問題解決的な学習過程との関係
III 一単位時間の指導展開例	・本時の目標 ・本時で取り上げる「活用」の特徴 ・児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能 ・展開案及び主発問 ・「活用」の具体的内容・手順 ・活用を図る学習活動の具体例、留意点

### (2) 指導展開例の作成手順と方法

#### ア 指導展開例提示までの手順

「『活用』に関する指導資料」や参考文献を基に、「活用」のとらえを明確にした上で、指導展開例（試案）を作成する。

指導展開例（試案）を用いた授業実践から得られた成果や課題を基に、指導展開例を作成することとする。次頁【図3】に指導展開例提示までの具体的な手順を示す。



【図3】指導展開例提示までの手順

イ 指導展開例作成の方法

(ア) 単元の構想

学習指導要領に示された各分野の目標や内容，内容の取り扱いを基にして，習得すべき基礎的・基本的な知識・技能を明確にし，それらを単元指導計画の中に位置付ける。

また，3頁【図1】で示した単元における学習過程の三段階（社会を知る・社会がわかる・社会を考える）に基づき，意図的・計画的に「活用」を位置付ける。

(イ) 一単位時間の構想

基礎的・基本的な知識・技能を，3頁【図2】で示した一単位時間における学習過程の五段階（課題把握・予想・追究・交流・まとめ）の，どの過程において，どのように活用させるかについて単元指導計画に基づき構想する。

特に，学習課題においては，単位時間毎に身に付けさせたい概念的な知識を関連付け，発問においては，児童の思考が「活用」につながっていくものを示す。

(ウ) 授業展開例で示す授業場面の選択

授業実践の結果に基づき，「活用」のとりえの特徴がよく表れ，児童の「活用」の様子が具体的に伝わり，他の学年や単元でも応用や汎用が可能な授業場面を選択し，指導展開例として示す。

(3) 指導展開例の様式

指導展開例は，上記の単元及び一単位時間の構想をふまえ，「活用」の位置付けを明確にするため，単元構想図と一単位時間における指導展開例に分けて示すこととする。

授業実践の結果や参考文献を基に，単元及び一単位時間の指導展開例に盛り込むべき内容を吟味し，展開例から，「活用」のイメージがもてたり，「活用」を意識した授業の構想が立てたりできるようにする。

ア 単元構想図の様式

単元構想図の様式を【図4】のように、縦軸が一単位時間における問題解決的な学習過程、横軸が単元全体における問題解決的な学習過程となるような一覧表にすることにした。このことで、単元全体を俯瞰した際に、授業の目的に応じて、「読み取り」「再構成」「表現・説明」「話し合い」という四つの「活用」が、単元指導計画の中にどのように意図的・計画的に組み込まれているかを確認できるようにした。

これらの「活用」は、一単位時間の授業展開に常に位置付けることができるが、それら全てを盛り込んで授業をすると時間内におさめることが困難になる。そのため、軽重を付けて、四つの「活用」をバランスよく位置付けていくことが大切である。

そこで、一単位時間の授業において、四つの「活用」のうち、どれを焦点化し、問題解決的な学習過程のどこに位置付けるかを毎時間示すこととした。また、その際、具体的な授業の流れ及び概要を示し、授業の内容が具体的にイメージできるようにした。（【図4】※1参照）

表の上段においては、本時で身に付けさせたい基本的な知識・技能を明記した。（【図4】※2参照）さらに、それらの知識・技能を活用することで児童に身に付けさせたい概念的な知識について文章化し、表の最下段に示すこととした。（【図4】※3参照）

また、一単位時間に位置付けた「活用」が、それぞれどのように関連し合いながら単元の学習過程に組み込まれているかを示すために、特にも関連の深い「活用」を矢印でつなげ、示すこととした。（【図4】※4参照）

学年 単元名		単元全体における問題解決的な学習過程						
単元の目標	社会を知る		社会が分かる		社会を考える			
	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	
活用する知識	※2							
活用する技能	※1							
一単位時間における問題解決的な学習過程	課題把握	※1 「活用」における具体的な内容						
	予想							
	追究							
	交流				※4			
	まとめ							
身に付けさせる概念的な知識	※3							

【図4】単元構想図の様式



イ 一単位時間における指導展開例の様式

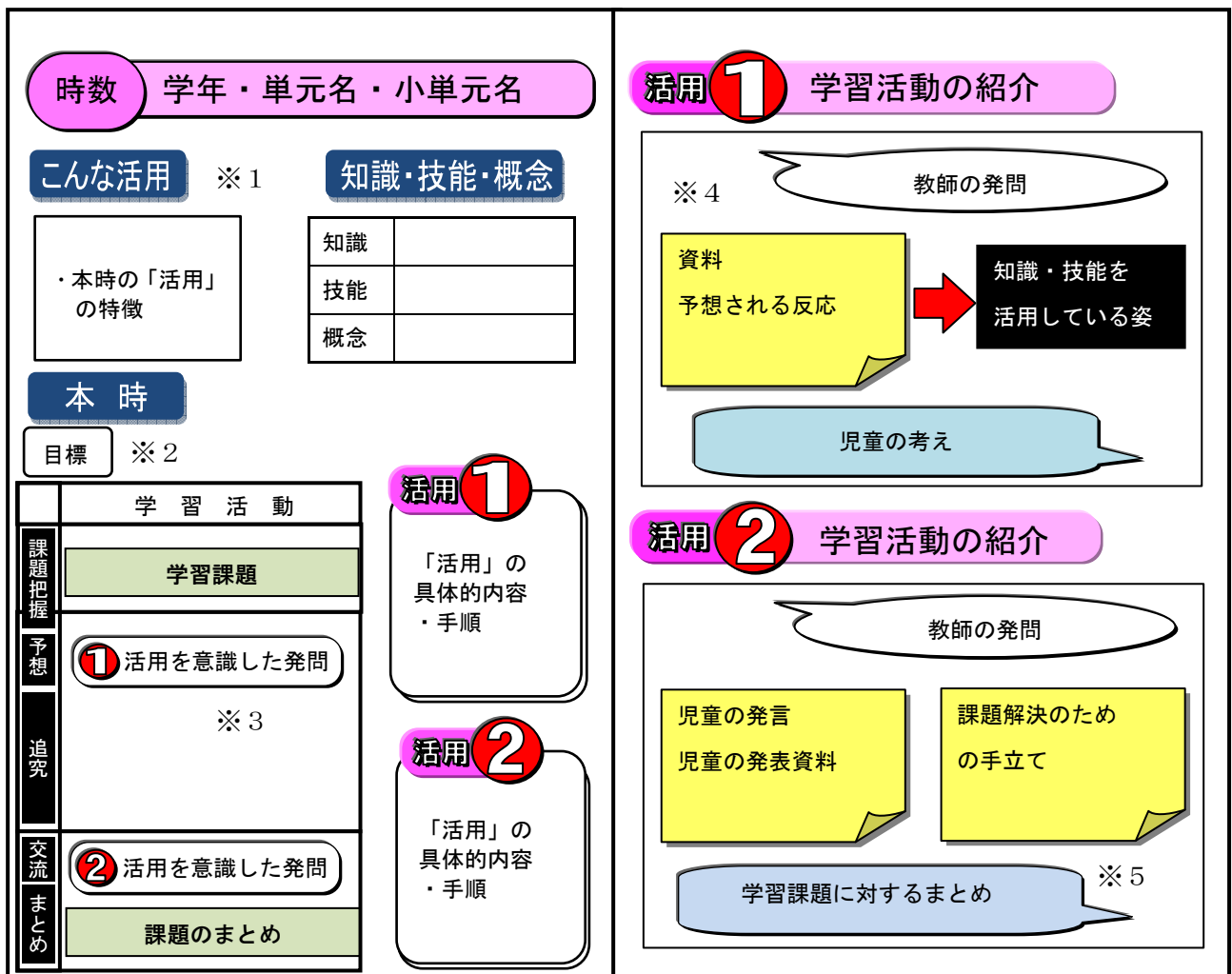
一単位時間の様式を【図5】のように構想した。左頁は授業の概要、右頁は具体的な「活用」の様子を示す見開き2頁で構成することにした。このことで、一単位時間の授業が、どのように展開し、どの活用場面を焦点化して授業を行っていくのかを俯瞰して確認できるようにした。

左頁では、上段部分に本時の「活用」の特徴を示すこととした。また、本時で身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能や概念的知識を一覧としてまとめて示し、本時でどのような知識・技能を重点的に指導すればよいか理解できる構成とした。（【図5】※1参照）

中段では、本時の目標を、本時で身に付けさせたい概念的な知識に関連付けて設定することとした。また、学習課題やそのまとめに関連付けて設定することとした。（【図5】※2参照）

45分の流れを示した展開部分では、問題解決的な学習過程に沿って、「活用」を導入する際の発問を強調し、授業者が、より授業の流れをイメージしやすいようにした。（【図5】※3参照）また、発問から導入される「活用」の内容や手順について右側に具体的に示し、展開の流れが見えるようにした。

右頁では、具体的な活用を図る学習活動の様子を、図やイラストを中心に示し、視覚的に「活用」をとらえることができる構成とした。教師の発問から児童がどのような学習活動を行い、どのように知識・技能の活用が図られるのかを、児童の反応や成果物等で具体的に示すこととした。（【図5】※4参照）また、「活用」のまとめの方向性について授業者がとらえることができるように、児童の考えや学習課題に対するまとめを例文として示すこととした。（【図5】※5参照）



【図5】一単位時間における指導展開例の様式

### 3 授業実践及び実践結果

#### (1) 授業実践の計画

指導展開例を作成するために、【表5】の計画に基づき、所属校で授業実践を行うこととした。学年に関しては、習得すべき知識・技能が学習指導要領において比較的明確に示されている高学年を選択し、また単元に関しては、過去の学習定着度状況調査で正答率の低さを指摘された箇所を中心に、所属校の当該学年の進捗と研究者の研究推進計画とを照らし合わせた上で選定した。

また、授業実践の際には、児童や参観した教師を対象にアンケート調査を行うこととした。

児童に対しては、感想（自由記述）の他に、児童が「活用」をしていたかどうか判断できるようなアンケートを実施することとした。

教師に対しては、今まで自身が行ってきたり、参観してきたりした社会科の授業と、研究者が行った「活用」を意識した授業との比較に主眼を置いた感想をとることとした。

【表5】授業実践の計画

	授業実践Ⅰ	授業実践Ⅱ
時期	6月22日～6月29日	9月10日～10月6日
学年（人数）	第6学年（男2名 女5名 計7名）	第5学年（男7名 女4名 計11名）
単元名（時数）	全国統一への動き（6時間）	自動車工場を訪ねて（15時間）

#### (2) 授業実践Ⅰにおける単元の概要

##### ア 単元のねらい

本単元のねらいは、キリスト教の伝来、織田、豊臣の天下統一、江戸幕府の始まりについて調べ、戦国の世が統一され、身分制度の基礎が確立し、武士による政治が安定したことを理解させることである。

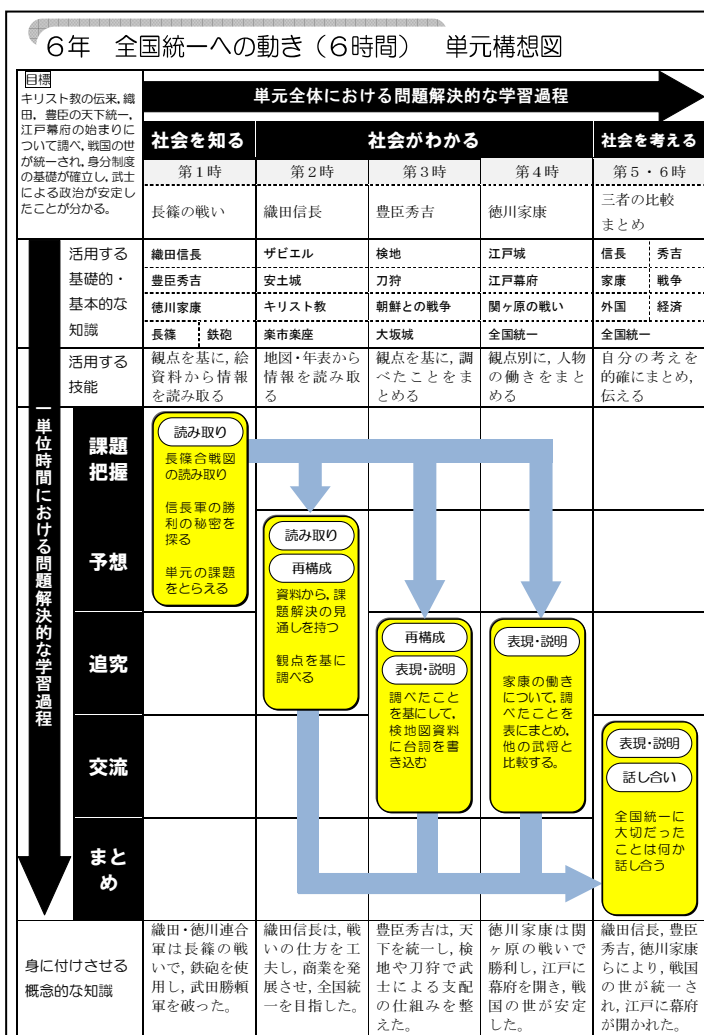
##### イ 単元の指導構想

【図6】は、本実践の単元構想図である。

第1時は「社会を知る」段階とし、長篠合戦図から全国統一への動きについて興味・関心をもたせる「読み取り」を中心に位置付けた。

第2～4時は「社会がわかる」段階とし、信長、秀吉、家康による全国統一までの施策をまとめる「再構成」「表現・説明」を中心に位置付けた。

第5、6時は「社会を考える」段階とし、三人の武将の功績をふり振り返りながら、全国統一に大切だったことは何かをまとめる「表現・説明」「話し合い」を中心に位置付けた。



【図6】単元構想図（第6学年）

(3) 授業実践Ⅱにおける単元の概要

ア 単元のねらい

本単元のねらいは、様々な工業製品が国民生活を支えていること、工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きを理解させることである。

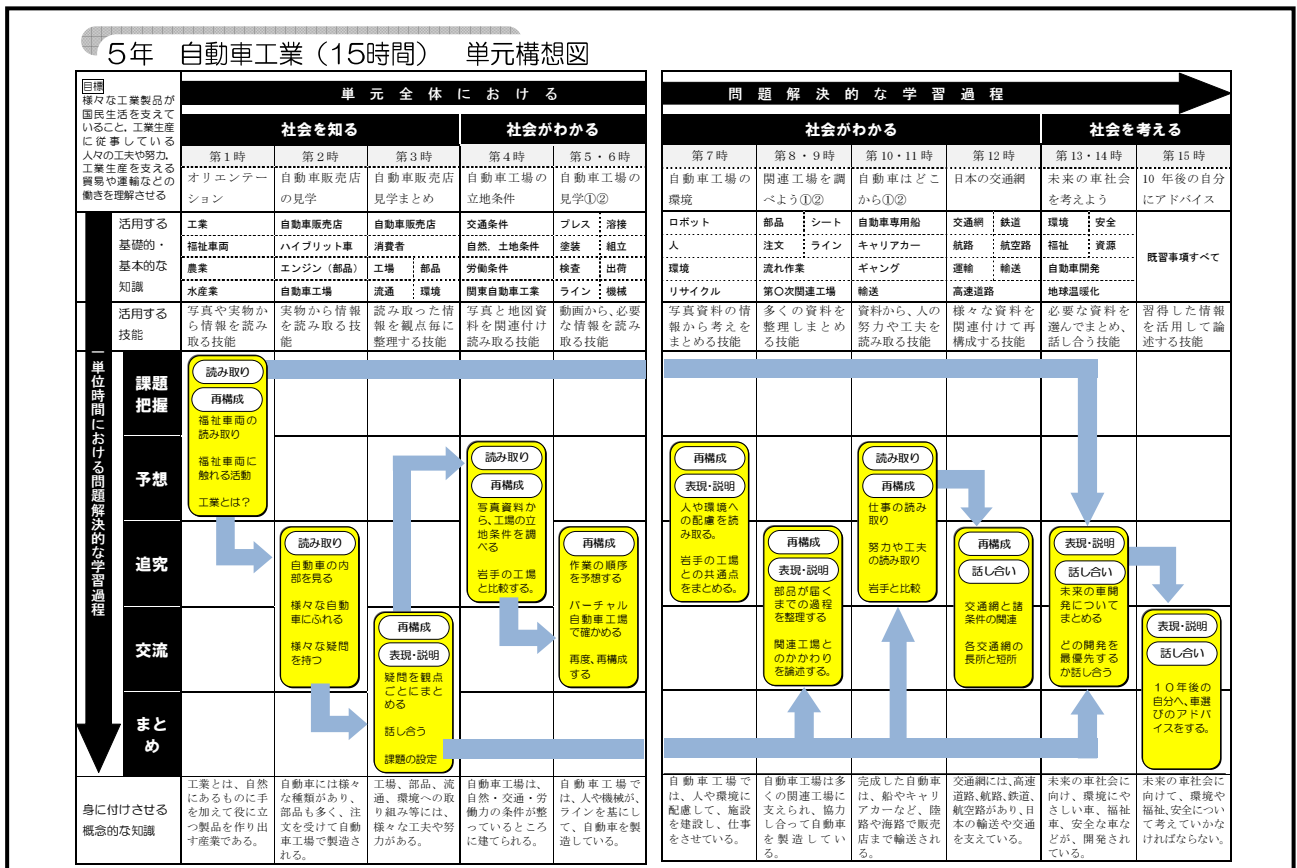
イ 単元の指導構想

【図7】は、本実践の単元構想図である。

第1～3時は「社会を知る」段階とし、福祉車両を調べる活動や自動車販売店の見学など、自動車に興味・関心をもたせる「読み取り」を中心に位置付けた。

第4～12時は「社会がわかる」段階とし、自動車工場の見学や、関連工場とのかかわり、流通と交通網の仕組みなどを調べる「再構成」「表現・説明」を中心に位置付けた。

第13～15時は「社会を考える」段階とし、自動車について調べてきたことをふり振り返りながら、未来の自動車開発についてまとめる「表現・説明」「話し合い」を中心に位置付けた。



【図7】単元構想図（第5学年）

(4) 指導場面の概要

授業実践における「読み取り」「再構成」「表現・説明」「話し合い」を位置付けた指導場面の概要について、【表6】のとおり示す。

【表6】「活用」にかかわる指導場面の概要

頁	「活用」	学習過程	学年・小単元名（時数）	資料
10	読み取り	課題把握～追究	5年 自動車工場の立地条件（4／15）	【資料1】
11	再構成	課題把握～追究	6年 豊臣秀吉（3／6）	【資料2】
12	表現・説明	まとめ	5年 未来の自分への手紙（15／15）	【資料3】
13	話し合い	交流～まとめ	6年 全国統一に大切なこと（6／6）	【資料4】

【資料1】「読み取り」を位置付けた指導場面の概要（第5学年）

<b>4/15 工場立地条件</b>	<b>【目標】自動車工場がどのような場所に建てられているのか理解する。</b>
<b>課題把握～追究</b>	

**活用する技能**

10の観点

①分布②色③季節  
④多少⑤音⑥新旧  
⑦自然⑧時⑨比較  
⑩交通

で読み取る技能


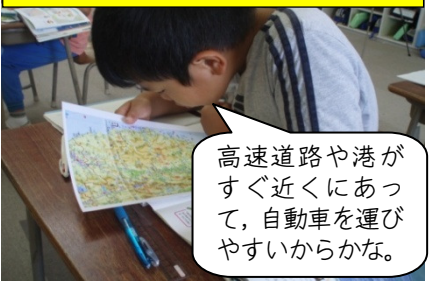


**習得した知識**

工場の立地条件

交通 道路・港・鉄道  
自然 自然災害対策  
労働 人口の多い町  
土地 広い面積、平地

複数資料から読み取ったことを関連付け、工場立地条件を考える。

学習活動の様子	児童の反応・成果物
<p>工場写真から分かったことや気付いたこと、疑問に思ったことを読み取る。</p>  <p>工場の中に港があって、大きな船が泊まっているぞ。</p>	<p>T この工場の写真を見て、分かったことや気付いたこと、疑問に思ったことを書きましょう。</p> <p>C 海が近くにある。 C とても広い。 C 車がたくさん並んでいる。 C 大きい船がある。 C 近くに大きな道路がある。 C たくさんの工場がある。 C 工場の中にも道路がある。 C 校庭いくつ分の広さだろう。</p>
<p>なぜ、苅田町（福岡県）に、自動車工場が建設されたのか考える。</p>  <p>高速道路や港がすぐ近くにあって、自動車運びやすいからかな。</p>	<p>T どうしてこの場所に自動車工場が建てられたのでしょうか。地図帳を使いながら考えましょう。</p> <p>C 自動車を運ぶための港がある。 C 高速道路が近いからすぐ運べる。 C 北九州市が近いので、たくさんの人が働くことができる。 C 鉄道が通っていて、通勤に便利。 C 山がなくて平らな土地だから、工場を作りやすい。 C 台風や地震の被害が少ない。</p>

感想（「活用」にかかわるもの）

<b>教師</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な資料の活用がなされている。1頁（教科書）の中にある資料を十分に活用している。</li> <li>資料を読み取る観点を与えたことで、児童は問題解決に必要な情報を数多く読み取っていた。</li> </ul>
-----------	---

授業の様子・展開例への工夫

<b>授業の様子</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点を基に、港、巨大な船、広大な敷地面積、高速道路など多くの情報を読み取り、地図帳で位置関係を確認しながら、分かったことや疑問点などを整理することができていた。</li> <li>「なぜこの場所に工場が建設されたのか」という問いに対し、前段階で読み取った情報（周辺に存在する港・高速道路をはじめとする交通網の発達・北九州市など大都市圏との隣接・平地が多い地域条件）と関連付けて、思考力を発揮しながら工場の立地条件を導き出していた。</li> </ul>
--------------	---

<b>展開例への工夫</b>	<p><b>観点を設定した読み取りを示す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料の読み取りにおける観点「①分布②色③季節④多少⑤音⑥新旧⑦自然⑧時⑨比較⑩交通」などを示す。これにより、児童が課題解決に向けて多くの情報を読み取ることができるようにする。</li> </ul> <p><b>箇条書きで整理する読み取りを示す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「分かったこと（分析的な発見）」、「気づいたこと（直接的・表面的な発見）」、「疑問に思ったこと（調べてみたいこと）」を箇条書きで記録する手だてを示す。これにより、児童がそれぞれの思考レベルに沿った読み取りを行えるようにする。</li> </ul> <p><b>複数資料を関連付けた読み取りを示す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地図帳や年表、グラフなど複数の資料を比較し、関連付けながら情報を読み取る展開を示す。これにより、児童が社会的事象を多面的にとらえられるようにする。</li> </ul>
----------------	--



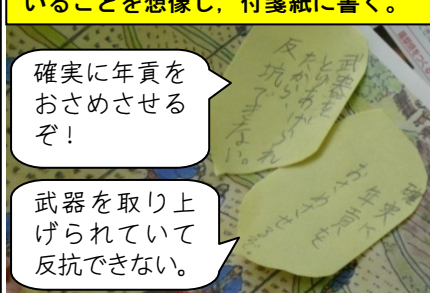
3/6 豊臣秀吉 課題把握～追究	【目標】 検地や刀狩から、秀吉の目指した国づくりについて調べる。
---------------------	----------------------------------

活用する知識

- 検地
  - ・ 全国の田畑を管理
  - ・ 年貢を確実にとる
- 刀狩
  - ・ 農民一揆を防ぐ
  - ・ 身分制度の確立

学習活動の様子


検地想像図で役人、農民らが話していることを想像し、付箋紙に書く。



確実に年貢をおさめさせるぞ！

武器を取り上げられていて反抗できない。

検地想像図に付箋紙を貼り付け、お互いの意見を交流し合う。



検地や刀狩で、武士の支配の仕組みを整えたんだ。

児童の反応・成果物

↑ 検地想像図の役人や農民の台詞を予想して書きましょう。

(農民の台詞)

C なぜ年貢なんてものがあるのだ。

C 検地なんかやめてほしい。

C 刀狩で武器がないから逆らえない。

C あの田んぼは広いからたくさん年貢をとられるなあ。

(役人の台詞)

C 検地はあなた達がいなくてできないのです。

C 多く年貢をとるためにきちんと測りなさい。

C 確実に年貢をおさめさせるぞ。

---

↑ 秀吉は、検地や刀狩でどんな国を作ろうとしたのでしょうか。

C 一揆や戦争が起きない平和な国。

C 身分制度がしっかりした国。

C 毎年米(年貢)がとれる国。

再構成

習得した知識

豊臣秀吉は、検地や刀狩を行うことで、武士による支配の仕組みを整えた。

感想（「活用」にかかわるもの）

児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習ったことを生かして、紙（付箋紙）に書いたのが楽しかった。</li> <li>・ 吹き出しに言葉を書いて、検地や刀狩のことがよく分かった。</li> </ul>
教師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吹き出しに三者の会話をまとめたことで、検地や刀狩りのつながりがはっきりしたと思う。</li> <li>・ 自分の考えをまとめるのが苦手な児童も、楽しんで書けるので取り組みやすいと思った。</li> </ul>

授業の様子・展開例への工夫

授業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童は、「検地・刀狩」と「秀吉の政策意図」を関連付けながら、検地想像図に登場する役人や農民の台詞を想像し、記述していた。</li> <li>・ 拡大した検地想像図に児童一人一人の台詞を貼り付ける際、どの台詞をどの登場人物に貼れば会話が成立するか、思考力を発揮しながら話し合っていた。また、付箋紙を組み合わせたり、貼り替えたりする操作活動で、「検地・刀狩」には様々な意味があることに気付いていた。</li> </ul>
-------	---

展開例への工夫	<p style="background-color: black; color: white; padding: 2px;">習得した知識を台詞にまとめる再構成を示す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵資料に登場する歴史上の人物や、写真資料に登場する働く人物の台詞を想像し、付箋紙などに書き込む展開を示す。これにより、児童が学習したことを関連付けてふり返りながら、イメージをふくらませてまとめることができるようにする。</li> </ul> <p style="background-color: black; color: white; padding: 2px;">付箋紙を用いた再構成を示す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台詞などを書き込んだ付箋紙をグループごとに持ち寄り、発表し合い、再構成しながら貼り付ける展開を示す。これにより、児童が互いの意見を比較・関連付け・総合させながら、付箋紙を組み合わせ、その過程で多面的に社会的事象をとらえることができるようにする。</li> </ul>
---------	---

【資料3】「表現・説明」を位置付けた指導場面の概要（第5学年）

<b>15/15 未来の自分へ まとめ</b>	<b>【目標】</b> 学習したことをふり振り返りながら、未来の自分へ自動車選びのアドバイスを する手紙を書く。
-----------------------------	---

**活用する知識**

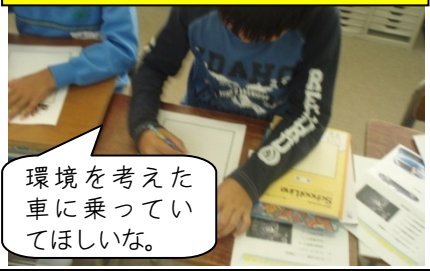
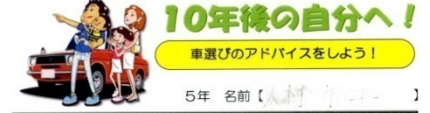
単元で習得した知識

- ・ 自動車の製造過程
- ・ 自動車の流通
- ・ 自動車の販売
- ・ 交通網
- ・ 未来の自動車開発

表現・説明

**習得した知識**

未来の車社会には、環境や福祉、安全について考えられた自動車が必要である。

学習活動の様子	児童の反応・成果物
<p><b>10年後の自分に手紙を書き、自動車選びのアドバイスを</b>する。</p>  <p>環境を考えた車に乗ってほしいな。</p> <p>単元で学習したことを活用し、総合的に車選びのアドバイスを</p>  <p><b>10年後の自分へ!</b> 車選びのアドバイスをしよう!</p> <p>5年 名前【人村 〇〇】</p> <p>10年後の自分へ こんにちは。車を買う時は車を買った方がいいですよ。なぜなら車が止まったとき、エンジンも止まっていて環境にやさしいからです。でも、安全な車も買ってください。</p> <p>エコカーを買って、地球環境を大切にしてください。</p>	<p><b>10年後の自分への手紙</b></p> <p>車を買う時は、<u>環境にやさしい車</u>や<u>安全な車</u>を買った方がいいですよ。なぜなら車が止まったとき、エンジンも止まっていて<u>環境にやさしい</u>からです。(中略)最近では交通事故が減っていますが、10年後にはもっと減ってほしいので、<u>安全な車</u>も買ってください。でも、<u>環境にやさしい車と、安全な車を合わせた車</u>があったら、その車を買ってください。</p> <p>今はどんな車がはやっていますか。おすすめは「〇〇〇」です。<u>形、大きさ、色</u>などがいいです。(中略)</p> <p>あと、環境が悪ければ、<u>エコカー</u>にしてください。<u>少しお金がかかる</u>かもしれないけれど、環境にやさしいです。お年寄りになってもまだ運転したい時は、<u>福祉車両</u>を買ってもいいかもしれません。(中略)最後に、<u>車の部品はいろいろな工場</u>で作られています。作人は<u>努力や工夫</u>をして作っているので、車を大事に運転してくださいね。</p>

感想（「活用」にかかわるもの）

教師	・10年後の自分に手紙を書くということが、児童にとって、(学習をまとめる)良い動機付けになっていた。
----	--

授業の様子・展開例への工夫

授業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「10年後の自分に自動車選びのアドバイスを</li> </ul>
-------	--

展開例への工夫	<p><b>生活経験とかかわりをもたせた表現・説明を示す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の生活経験と、学習した内容を関連付けながら表現・説明する展開を示す。これにより、児童が学習したことを自分のこととしてとらえ、社会的事象について、自分の考えを基にまとめることができるようにする。</li> </ul> <p><b>人物とのかかわりをもたせた表現・説明を示す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史上の人物に自分の歴史分析をまとめた手紙を書いたり、教科書に登場する人物に学習感想をまとめた手紙を書いたりする展開を示す。これにより、児童が、歴史を身近なものとしてとらえたり、社会的事象に親近感をもったりしながら自分の考えをまとめることができるようにする。</li> </ul>
---------	---

【資料4】「話し合い」を位置付けた指導場面の概要（第6学年）

6/6 発表会 交流～まとめ	【目標】 全国統一をするために大切だったことは何かをまとめ、話し合う。
-------------------	-------------------------------------

**活用する知識**

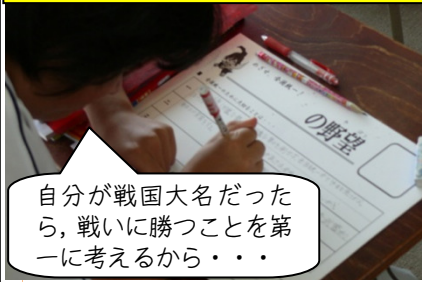
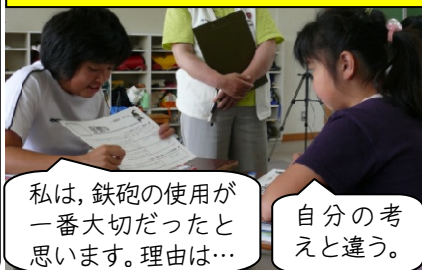
- 戦い
- 仕組み（経済）
- 外国のかかわりの観点で整理した三人の武将の働き

話し合い

**習得した知識**

三人の武将は、戦いの仕方や政治の仕組みを工夫し、外国との交流を図り、全国統一を目指した。

根拠を基にした順位付けから全国統一に大切だったものを判断する。

学習活動の様子	児童の反応・成果物						
<p style="background-color: yellow;">全国統一をするのに大切だったと思うことをランキングでまとめる。</p>  <p>自分が戦国大名だったら、戦いに勝つことを第一に考えるから・・・</p>	<p style="background-color: yellow;">全国統一に大切だったこと</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">一 鉄砲</td> <td>鉄砲は日本では徳川幕府の時代に初めて使われ、戦いの要諦で、戦いに勝つために使われた。</td> </tr> <tr> <td>二 刀狩</td> <td>農民が一揆を起すのを防ぐために、武器を没収する。</td> </tr> <tr> <td>三 外国との貿易</td> <td>外国から色々な武器や道具が輸入できる。</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第一位－鉄砲の使用 当時の最新兵器だから。</li> <li>■ 第二位－刀狩 農民に一揆を起させない。</li> <li>■ 第三位－外国との貿易 様々なものを輸入できる。</li> </ul>	一 鉄砲	鉄砲は日本では徳川幕府の時代に初めて使われ、戦いの要諦で、戦いに勝つために使われた。	二 刀狩	農民が一揆を起すのを防ぐために、武器を没収する。	三 外国との貿易	外国から色々な武器や道具が輸入できる。
一 鉄砲	鉄砲は日本では徳川幕府の時代に初めて使われ、戦いの要諦で、戦いに勝つために使われた。						
二 刀狩	農民が一揆を起すのを防ぐために、武器を没収する。						
三 外国との貿易	外国から色々な武器や道具が輸入できる。						
<p style="background-color: yellow;">話し合いを通して、全国統一に大切だったことは何か考えをまとめる。</p>  <p>私は、鉄砲の使用が一番大切だと思っています。理由は…</p> <p>自分の考えと違う。</p>	<p>T 質問や意見を出し合い、何が大切か考えましょう。</p> <p>C 私は、全国統一に大切だと思うことの一位を、<b>鉄砲</b>の使用にしました。理由は、当時の最新兵器で、戦いでも有利だと思うからです</p> <p>C 私の一位は、<b>外国との交流</b>です。外国と仲良くないと、たくさんの文化や武器が入ってこないと思います。</p> <p>C どれが一番大切だったのだろう。</p>						

感想（「活用」にかかわるもの）

児童	・三人の全国統一への道、工夫がよく分かったし、いろいろな秘密があっっておもしろかった。 ・友達の意見を聞きながら発表し合えて、よく分かった。
教師	・交流の場を充実させることは、児童が単元をふり返って学習のまとめをするのに重要である。 ・根拠を基に話し合いを行う際にも、資料を読み取る力が大切だということを痛感した。

授業の様子・展開例への工夫

授業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国統一をするために大切だったと思うことを児童に発表させた際、海外貿易と鉄砲の入手を関連付けたり、一向一揆と刀狩などを関連付けたりする発表が多く見られた。</li> <li>・「自分が戦国大名であれば」という視点で、根拠を基に順位付けて考えさせることにより、誰の考えが最も全国統一に近いのか、判断力を発揮しながら競い合う児童の姿が見られた。</li> <li>・児童は話し合いの中で、自分とは違う考えに触れることにより、自身の考えを広げ、新たな観念に気付きながら全国統一の流れをふり返っていた。</li> </ul>
-------	--

展開例への工夫	<p style="background-color: black; color: white; padding: 2px;">順位付けを基にした話し合いを示す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを概括しながら話し合う際に、根拠を基にした順位付けなどを行う展開を示す。これにより、児童が、社会的事象の背景などに言及しながら、論理的に話し合うことができるようにする。</li> </ul> <p style="background-color: black; color: white; padding: 2px;">自分自身に置き換えて考える話し合いを示す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「もし、自分が戦国武将だったら～」、「もし自分がりんご農家だったら～」など、学習した場面や状況に身を置いて話し合う展開を示す。これにより、児童に自分なりの根拠や解釈を持ちやすくし、論点の多い話し合いを行えるようにする。</li> </ul>
---------	--

授業実践Ⅰ・Ⅱをとおして、児童は、観点に基づいて調べたり、感想だけでなく根拠を示しながら意見を発表したり、今までの学習をふり返ったりするなど「活用」場面で熱心に取り組み、理解を深め、表現の仕方も工夫を凝らすようになっていった。また参観した教師からも「活用」を意識した授業についての評価は高く、アンケート結果から関心の高さも伺えた。

これらのことから、習得させる基礎的・基本的な知識・技能を明確にし、「活用」を意識した授業を行うことが、児童に基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、社会的な思考力・判断力・表現力の育成につながるという見通しをもつことができた。

【資料5】指導展開例に取り入れる「活用」の例

	「活用」の例	具体的な展開例
読 み 取 り	観点を設定した読み取り	絵・写真資料の読み取りにおいて複数の観点（分布・色・季節・多少・音・新旧・場所・時など）を提示し、多くの情報を読み取る。
	箇条書きで整理する読み取り	分かったこと（分析的な発見）、気付いたこと（表面的・直接的な発見）、疑問に思ったことを箇条書きで整理しながら資料を読み取る。
	複数資料と関連付けた読み取り	複数資料（地図帳・年表・グラフなど）を関連付け、社会的事象を多面的に読み取る。
	実物などに触れる読み取り	社会科見学や、事物の提示等において、社会的事象に直接触れたり、インタビューしたりすることで情報を読み取る。
	段階的な読み取り	予備的な読み取りで、どの児童にも一定量の情報を蓄積させ、それらを活用して社会的事象について詳しく読み取る。
	地図・年表・各種統計資料の読み取り	地図帳や年表、統計資料の活用を課題解決に位置付け、読み取る。グラフ等の読み取りにおいて、段階的な指導を行いながら読み取る。
	資料の選択・収集における読み取り	課題解決に必要な資料を集めたり、選んだりし、情報を読み取る。バーチャル工場見学など、インターネットを活用して読み取る。
	文章資料の読み取り	絵・写真資料から読み取った社会的事象の根拠を、教科書の文章資料に求め、読み取る。
再 構 成	習得した知識を台詞にまとめる再構成	歴史上の人物や絵資料に登場している人物の台詞を想像して書くことで、習得した知識を関連付けながらまとめ、再構成する。
	付箋紙を用いた再構成	見学等の中で、気付いたことや調べてみたいことなどを付箋紙にまとめ、グループ毎に様々な考えを分類、整理しながら再構成する。
	カードの照応による再構成	浄水場や自動車工場など、作業工程の写真と説明文のカードを、未整理のまま提示し、順に組み合わせ、照応し、知識を再構成する。
	読み取りにつなげる再構成	工場などにおける製造過程をカードの組み合わせなどで予想した上で、実際に確認（読み取り）を行う。「再構成」→「読み取り」
	地域間の比較において行う再構成	教科書に紹介されている社会的事象と、自分たちの地域の社会的事象を比較し、共通点や相違点を整理し、再構成する。
	長所と短所を整理する再構成	交通網（航路・航空路・道路・鉄道）など、ある社会的事象における長所と短所を整理し、マトリクス図などに再構成する。
	拡散的思考による再構成	単元導入時の読み取りにおいて習得した知識を、ウェビングやマインドマップなどで観点毎に再構成し、学習計画を立てる。
	学習課題を設定するための再構成	資料から読み取ったことを全体で発表し合い、分類、整理することで、学習課題として再構成する。



#### 4 指導展開例に取り入れる「活用」の例

授業実践Ⅰ・Ⅱの結果や参考文献を基に、指導展開例に取り入れる「活用」を意識した授業について次の①～③の観点で検討し、具体例として【資料5】のようにまとめ、これらの具体例を盛り込んだ授業展開例を作成した。

- ① 汎用性 : 他単元, 他学年においても, 利用・応用できる内容であること。
- ② 分かりやすさ : 「活用」について, 具体的にとらえやすい内容であること。
- ③ 追試のしやすさ : 容易に実践できる内容であること。

	「活用」の例	具体的な展開例
表現・説明	相違点や共通点における表現・説明	信長・秀吉・家康の働きを戦いの仕方や外国とのかかわりなどの観点でマトリクス図にまとめ, 相違点や共通点について表現・説明する。
	複文型の問いに対する表現・説明	「○○は～～したが, ●●は～～したのはなぜか」というような, 複文型の問いに対して自分の考えをまとめ, 表現・説明する。
	学習課題に対する表現・説明	学習課題に対して, 本時で習得した基礎的・基本的な知識・技能を使ってまとめの文を書き, 自分の考えを表現・説明する。
	生活経験とかかわりをもたせた表現・説明	自身の生活経験と学習した内容を関連付けることで, 学習した内容を自分の問題としてとらえ, 考えをまとめ, 表現・説明する。
	人物とかかわりをもたせた表現・説明	教科書で紹介されている人物(歴史人物・働く人々)へ, 学習感想をまとめた仮想の手紙を書き, そのやり取りをとおして表現・説明する。
	仮想インタビューによる表現・説明	歴史人物へのインタビュー形式でのやりとりを書く活動をとおして, 学習した内容について表現・説明する。
	キャッチフレーズCMによる表現・説明	自分たちの地域の産業などをPRするようなキャッチフレーズ, CMを作成(表現・説明)する。
	地図・新聞・パンフレットによる表現・説明	自動車工場の学習で習得した知識を活用して, これからの社会に必要な自動車というテーマでパンフレットを作成(表現・説明)する。
話し合い	順位付けを基にした話し合い	根拠を基にした順位付けなどを行い, 学習した内容の一つ一つを想起しながら話し合う。
	自分自身に置き換えて考える話し合い	「もし, 自分が戦国武将だったら～」など, 学習した場面や状況に身を置いて話し合うことで自分なりの根拠を持ち, 話し合う。
	ひな型を用いた話し合い	話し合いのひな型を提示することで, 相手の意見をくみ取りながら自分たちの意見を展開し, 話し合う。
	未来の社会を想像する話し合い	未来の社会を想像しながら, これからどのように社会で生きていけばよいか, 考えを話し合う。
	解決方法を考える話し合い	ごみ問題など, 社会的な課題を解決するために, 自分たちができることは何かについて話し合う。
	賛成・反対を問う話し合い	学習した社会的事象に対し, 賛成の立場と反対の立場に分かれ, 学習した内容を根拠に話し合う。
	感想を交流する話し合い	学習したことをふり返り, 楽しかったことや新しく知ったことなどを交流し, 話し合う。
	ゲストティーチャーとの話し合い	ゲストティーチャーを交えて, 学習したことについての疑問点などを質問し, 話し合う。

## 5 小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関するまとめ

これまで、基本的な考え方に基づいて授業実践をおこなった。実践結果の考察をとおして得られた知識・技能の活用を図る学習活動に関する成果と課題についてまとめる。

### (1) 成果

ア 「読み取り」にかかわる学習活動では、情報を読み取るための観点や整理する方法を具体的に提示した。これにより、児童は学習課題をとらえ、読み取った情報を基にして解決の見通しをもてるようになることが把握できた。

イ 「再構成」にかかわる学習活動では、カードや付箋紙を用いた操作活動や、複数資料を関連付けた追究活動を取り入れた。これにより、児童は読み取った情報を目的に応じて整理したり総合したりし、社会的事象の意味についてとらえられるようになることが把握できた。

ウ 「表現・説明」にかかわる学習活動では、生活経験とかかわらせたまとめ方の工夫や、手紙形式など表現方法の工夫を取り入れた。これにより、児童は自身の解釈や根拠を基に学習内容について概括し、社会的事象の特色や事象間の関連について説明できるようになることが把握できた。

エ 「話し合い」にかかわる学習活動では、根拠を基にした意見の発表や、話型を用いた質疑応答を取り入れた。これにより、児童は意見の交流をとおして社会的事象の様々な意味に気づき、一面的な判断にとどまらず、多面的に判断できるようになることが把握できた。

### (2) 課題

「再構成」にかかわる学習活動において、複数資料を関連付けながら社会的事象の意味をとらえさせる際、複数資料を併置しながら追究する経験があまりない児童は、資料の特色を関連付けながら社会的事象をとらえることが困難であった。今後は、複数資料を扱う授業を意図的・段階的に行い、社会的事象の意味をとらえるための指導方法を検討していく必要がある。

以上のことから、課題はあるものの、問題解決的な学習過程に「読み取り」、「再構成」、「表現・説明」、「話し合い」にかかわる学習活動を位置付けて指導していくことは、児童に基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、社会的な思考力・判断力・表現力の育成につなげることができると考える。

## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

この研究は、小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例を作成し提示することとおして、授業の改善に役立てようとするものである。そのために、小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する基本的な考え方をまとめた。そして、指導展開例（試案）に基づく授業実践を行い、小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動についてまとめた結果、成果として得られたことは、次のことである。

#### (1) 小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する基本的な考え方

小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動のとらえを明らかにし、知識・技能の活用を図る学習活動についての基本的な考え方をまとめることができた。

#### (2) 指導展開例作成に当たっての基本的な考え方及び手順と方法

基本的な考え方を基に、指導展開例を作成するための基本的な考え方と指導展開例作成の手順と方法を明らかにし、指導展開例の作成を進めることができた。

### (3) 授業実践及び実践結果の考察

授業実践及び実践結果の考察をとおして、知識・技能の活用を図る学習活動に関する基本的な考え方を基に行った授業が、児童に基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、社会的な思考力・判断力・表現力の育成につながるという見通しをもつことができた。

### (4) 小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関するまとめ

実践結果の考察から、活用を図る学習活動について明らかになったことをまとめ、問題解決的な学習過程に「読み取り」「再構成」「表現・説明」「話し合い」にかかわる学習活動を位置付けて指導していくことが授業改善につながるという見通しをもつことができた。

以上(1)～(4)で述べた成果を基に、小学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例を作成することができた。

## 2 今後の課題

本研究においては、高学年での実践にとどまっていることから、今後、中学年の単元についても実践をとおして、指導展開例の有用性を明らかにする必要がある。

### <おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童の皆さんに心から感謝を申し上げ、結びの言葉といたします。

### 【引用文献】

- 岩田一彦 (2001), 『社会科固有の授業理論・30の提言—総合的学習との関係を明確にする視点—』, 明治図書, pp. 90-94
- 岩手県教育委員会 (2008), 『「活用」に関する指導資料』, p. 18
- 北俊夫 (2008), 『新教育課程と社会科の授業構想』, 明治図書, p. 50
- 澤井陽介 (2009), 『教科調査官講演資料』, 弘前大学教育学部附属小学校, pp. 9-10
- 中央教育審議会 (2008), 『幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について (答申)』, pp. 79-82

### 【引用 web ページ】

- 国立教育政策研究所 特定の課題に関する調査 (社会)
- [http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei\\_shakai/index.htm](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei_shakai/index.htm)

### 【参考文献】

- 岩手県教育委員会 (2009), 『「活用」に関する指導資料』
- 岩手県教育委員会 (2006), 『平成 18 年度岩手県学習定着度状況調査結果報告書』
- 岩手県教育委員会 (2005), 『平成 17 年度岩手県学習定着度状況調査結果報告書』
- 岩手県教育委員会 (2004), 『平成 16 年度岩手県学習定着度状況調査結果報告書』
- 岩手県教育委員会 (2009), 『平成 21 年度学校教育指導指針 (幼稚園・小学校・中学校)』
- 北俊夫 (2009), 『小学校教育課程講座 社会』, ぎょうせい
- 『社会科教育 No. 539』, 明治図書